

腎臓からのSOSを見逃していませんか？

自覚症状に乏しい腎臓の病気は、早期から適切な治療を受けることが大切です。

健診結果を見直してみましょう

(1+/2+/3+)は
医療機関の受診を

蛋白尿は腎臓の涙！
泣いている原因を探しましょう。

尿検査	糖	(-)
	蛋白	(1+)
	潜血	(-)

腎機能	尿素窒素	12.1
	クレアチニン	1.1
	e G F R	56.9
	尿	
電解質	ナトリウム	
	カリウム	
	クロロゲン	
	カルシウム	

60未満は
医療機関の受診を

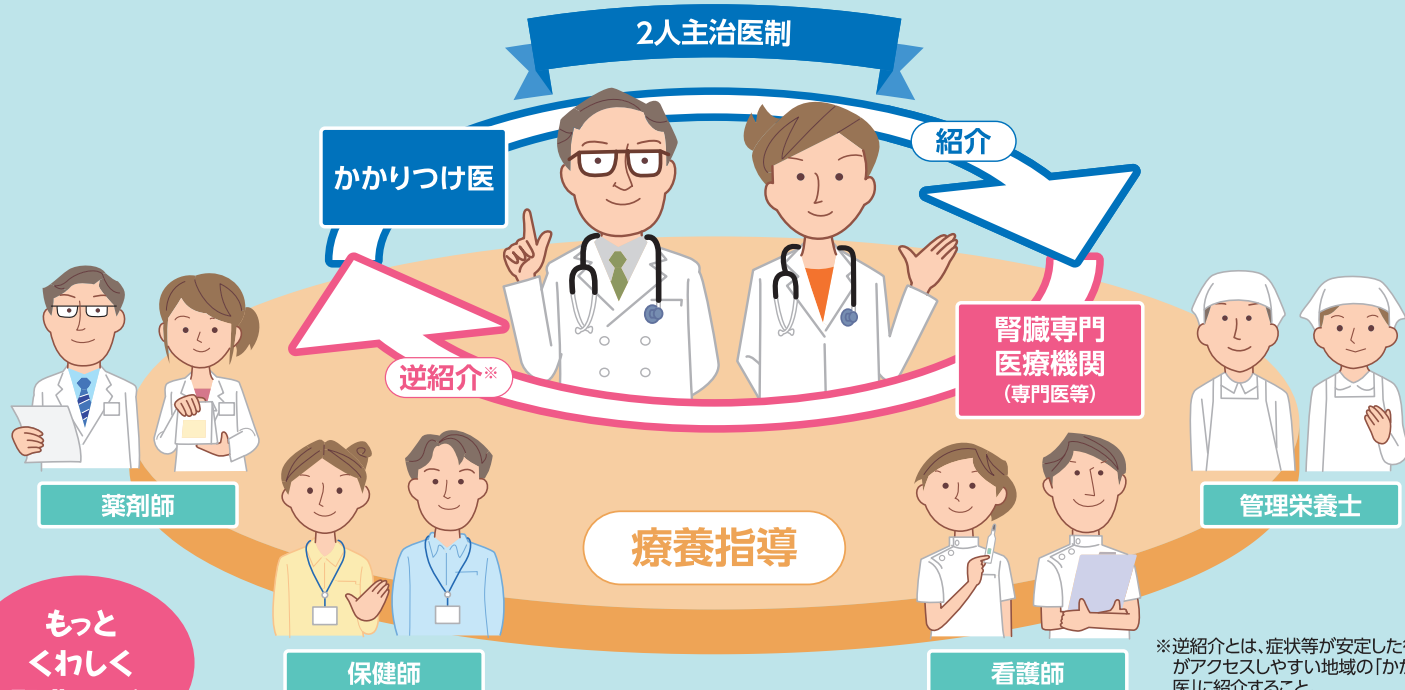
年齢・性別・血清クレアチニン値より計算されるeGFR値は、腎臓の状態を示します。

自分の腎臓と長くつきあうための第一歩
かかりつけ医に相談しましょう。

- ・クレアチニンは健診における必須項目ではないため、測定されないことがあります。
- ・既に医療機関を受診している場合は主治医に相談してください。
- ・60未満が3ヵ月以上持続する場合、慢性腎臓病の可能性があります。

安心して治療を受けられる医療体制の整備に取り組んでいます

かかりつけ医等と腎臓専門医療機関（専門医等）が連携して診療し（2人主治医制）、
メディカルスタッフとともに療養指導にあたります。



※逆紹介とは、症状等が安定した後、患者がアクセスしやすい地域の「かかりつけ医」に紹介すること。